

## 説教要旨「主イエスの弟子になる」

ルカによる福音書5章1～11節

シモンは会堂でイエス様の教えを聞き、感銘を受け、尊敬の思いを抱き、家に招きました。そのことによって、身内の病気を癒していただくという恵みを体験しました。そのような出会いがあったから彼は、一晩中働いて徒労に終わった疲れと不安の中でも、イエス様のために自分の舟を提供し、それによって、イエス様の語る神の言葉を間近で聞くことができました。そのように神の言葉を聞いていった彼は、本職の漁師としての常識を捨ててイエス様の言葉に従い、再び網を降ろしたのです。その結果、舟が沈みそうになるほどの奇跡的な大漁になりました。神様の圧倒的な恵みが自分に押し寄せて来て、人生を揺さぶられるような体験をしたのです。

これらのことは、私たちが、信仰を求め、聖書に親しみ、教会の礼拝において神の言葉を聞いていく中で、様々な形で体験することです。シモンと同じように私たちも、み言葉を聞いて感銘を受け、恵みを体験し、その中で、他ならぬイエス様の言葉だから、自分の考えや常識よりもそれに従おうという思いをも与えられます。そこには信仰の芽生えがあると言うことができるでしょう。けれどもそれらのことはあくまで、決定的な出会いへの備えとして起こるのです。大切なことは、主イエス・キリストにおいて生けるまことの神と出会うことなのです。そしてその出会いが起る時、私たちは、自分がイエス様の前に立つことのできない罪深い者であることを示されるのです。

イエス様を尊敬し、恵みを受け、み言葉に従おうとする思いの全てを打ち砕かれて、一人の罪人としてイエス様の前にひれ伏すのです。イエス様を敬い、み言葉に従おうとする思いなどの、私たちの中に生じる信仰の芽生えは全て、このことのための備えです。そして私たちが一人の罪人としてイエス様の前にひれ伏す所に、罪の赦しの恵みの宣言として「恐れることはない」というみ声が響くのです。

(2018・6・17 説教者：稲垣真実)